

第2回奥州市新医療センター検討懇話会 会議録

令和5年10月30日(金)14:15開会
本庁7階 委員会室

<出席者>

委員: 昆野宏彦委員、金野耕治委員、菊地恵委員、佐藤清光委員、伊藤公好委員、千葉一之委員、
松平アイ子委員、佐々木幸初委員、菅原千保子委員、八幡初恵委員、千田實委員

市側: 健康こども部長 高野 聡、健康こども部健康増進課保健師長 千葉 芳枝、
健康こども部新医療センター建設準備室参事兼室長 桂田 正勝、同副主幹 菊池 泰幸、同主査 佐藤 香純、
政策企画部未来羅針盤課副主幹 菊地 徳行、
医療局経営管理部長 佐々木 靖郎、医療局経営管理部経営管理課長 浦川 敏明

1 開 会

<桂田室長>

定刻となりましたので、ただいまより第2回奥州市新医療センター検討懇話会を開会させていただきます。

次第の2、健康こども部長 高野聡よりご挨拶を申し上げます。

2 あいさつ

<高野健康こども部長>

健康こども部の高野でございます。

本日は第2回目の奥州市新医療センター検討懇話会ということで皆様には、今月2回目の開催となりますけれども、お忙しいところお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

前回の検討懇話会においては、周産期医療と新医療センターの役割ということでご意見をいただいたところでございます。

皆様から分娩施設に対する強い思いを聞かせていただきましたし、新しい医療センターに求めるものとして、妊娠中や産後の相談をしやすい環境でありますとか、或いは産後ケア、夜間診療、休日診療、そういった、妊娠中から産後まで一貫してサポートしてくれるような場所というような話もいただいております。

さらにはそのハード整備だけではなくて、あわせてソフトの充実など、様々な意見をいただいたところでございます。

前回もお話しました通り、この検討懇話会は、今後策定いたします新医療センターの基本構想や基本計画に盛り込む内容について、主に市民目線、利用者目線でのご意見を頂戴したいという趣旨で開催をしているものでございます。

本日の会議につきましては、先にご案内いたしました通り、新医療センターの医療機能と病床規模について、それから新医療センターの設置場所についてという2つのテーマを設けております。

それから後半では、前回同様にですね、テーマを絞らない形でのフリートークの場面も設けております。

引き続き、皆様から忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げまして、挨拶に代えさせていただきます。

本日もどうぞよろしくお願いいたします。

3 意見交換

<桂田室長>

それではここからは座ったまま進めさせていただきます。

早速でございますけれども、次第の3、意見交換に入ります。

意見交換の部につきましては、昆野座長に進行をお願いいたします。

<昆野座長>

昆野でございます。

皆様方の積極的なご発言を頂戴しながらですね、今後策定するであろう新医療センターのですね、素案に、何でなんでしょう、その元にしてくってという辺りのご発言ということでございますので、私たちの意見が将来にわたる医療センターの機能の部分に反映されるような形で進めていければというふ

うに思っておりましたので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。
それでは大変申し訳ございませんが着座にて進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。
それでは意見交換の部の方を進めさせていただきます。
今回の進め方でございますが、前回と同様にですね、皆様方からご発言をいただくような形で進めて参りたいというふうに思っておりました。
それではまず前段で、(1)になりますが、新医療センターの医療機能と病床規模についてということで説明をちょうだいしたいと思います。
事務局の方でご説明をよろしくお願いいたします。

<佐藤主査>

事務局の佐藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
着座にて説明させていただきます。
それではですね、新医療センターの医療機能と病床規模について、ということで、資料の1ページ目をお開きください。
地域医療の方向性と新医療センターの役割案です。
地域医療の将来像である、地域医療奥州市モデルには6つのコンセプトがございます。
前回会議の中でもお示しました通り、ご覧の(1)から(6)までございますけれども、そのうち、地域全体に関するものとして、次の3つでございます。
(1) 市立医療施設、県立病院、民間医療施設が、機能分化、連携強化によるネットワーク型の地域医療体制の構築、(2) 地域包括ケアシステムの充実と、その一端を担うための医療体制の構築、(5) 医療情報のデジタル化を進め、医療施設間で情報を共有することにより、患者の利便性が向上し、業務を効率化させる、というものでございます。
次に、コンセプトのうち、5つの市立病院と診療所に関するものでございます。
(3) 医療資源を最適化し、デジタルネットワークや5つの市立医療施設と2つの県立病院の連携体制が整った後に、市立医療施設の集約化の検討を進めます、(4) 市立医療施設の経営改善と医師確保対策について実効性のある通り取組みを行います、(6) 奥州市モデルの実現をより確実なものにするために、複合型の新医療センターの整備を進めます。
この3つのコンセプトを踏まえた新医療センターの役割として、下の箱囲みのところになります、医療需要に対応しながら、医療施設として持続可能なものにする必要がございますので、今後も増加が見込まれる高齢者への対応として、回復期を重視した多機能型の医療を提供、それから市立医療施設全体の医療資源を最適化するためのコントロール機能、それから本部機能を強化し、連携や医療資源を調整、それと複合型の施設であることを活かした医療、保健、福祉が連携したサービスの提供、デジタル技術や情報ネットワークの活用です。
今ご説明しました内容をイメージ化したものが右側の図になります。
県立病院が急性期医療の提供、それから民間の病院・診療所は各役割に応じた医療提供、そして新病院を含む市立医療施設としまして、総合診療、在宅医療、僻地医療、遠隔医療、予防医療の提供。
地域包括ケアシステムの充実の部分では、介護サービス事業所との連携が重要となりますので、新医療センターが医療介護連携拠点として、連携体制の構築の支援を行います。
図の一番下のところでございますけれども。
モバイルクリニックと情報ネットワークの整備について、これについては、新医療センターの整備とは別に、市役所内に地域医療奥州市モデルプロジェクトという部会を設置しまして、その中で検討を進めているものでございます。
モバイルクリニックについては、僻地医療の提供として、衣川地区へのオンライン診療の導入を進めております。
それでは次に資料の2ページをご覧ください。新医療センターの医療機能と病床規模案です。
医療機能につきましては、前回の会議でご説明した通りの内容で変更ございません。
特徴としましては、急性期医療から回復期を重視した医療にシフトし、今後も増加が見込まれる高齢者に対して介護予防から在宅医療までの手厚い医療を提供できる体制構築を目指すというものでございます。
次に(2)の病床規模についてです。
前回全体で80床程度を基本に検討している旨をご説明しましたけれども、本日は病床種別ごとの内訳としまして、一般病床が20床、地域包括ケアが20床、回復期リハ病床が40床で考えております。
現在水沢病院は全体で145床のうち50床が休床しておりまして、実質95床の稼働となっております。

この病床数の基本的な考え方としましては、3点ございます。

1つ目としまして、岩手県が将来の患者数や人数をもとに、必要な病床数を推計した地域医療構想では、急性期病床が過剰で、回復期病床の需要が高くなっております。

これに合わせて必要病床数を確保するというを基本としております。

2つ目としまして、市立医療施設全体の削減数は84床で、その内訳として、※印1のところでございますけども、水沢病院が65床、前沢診療所が19床となります。

コロナ前に策定されました奥州金ヶ崎地域医療介護計画では、全体で100床を削減する方針としておりましたが、感染症対策を加味した見直しが必要となっております。

この見直しの中身としましては、対応ベッド数のほか、院内における感染対策や医療施設間の連携体制などでございます。

3つ目としまして、現在の水沢病院と比較して、65床の減となっております。

現在50床が休床しておりますので、実質15床の減となっております。

説明は以上になります。

<昆野座長>

はい。説明が終わりました。

まずはですね現在ご説明をいただいた内容の部分でもうちょっと確認しておきたいということがございましたら、質問をお受けしたいなと思います。

ご意見についてはそのあとに、それぞれからお伺いすることにしたと思います。

何かご不明な点等ございましたら、ご質問等どうでしょうか。

金野委員さんよろしくお願いします。

<金野委員>

公募の金野でございます。よろしくお願いします。

一つは、現在勤務されている、お医者さん方、病院の先生方ですね。

今回の計画、この新医療センターのベッドの内容について、ご賛同をされているのかどうか。

ご検討いただいた上で今日提案をされているのかについてだけ教えてください。

<昆野座長>

はい。

事務局の方でお願いします。

<桂田室長>

それではお答えいたします。

本当に病床数医療機能の部分もそうなんですけども、今本当に中ですね、もちろん水沢病院だけじゃなくて市立医療施設全体の院長、所長さんはじめ、ドクター或いはそれ以外の医療スタッフの方々も交えてですね、どういう機能がいいかというどういう規模がいいかっていうのは今盛んに検討してました。で、今現在で80床ということに対して、その医療スタッフの皆さんがみんなすべて納得しているという状況ではございません。やはり中でもいろいろなやっぱり意見がある状況で、これを今これからですね、あとここ1か月ぐらいのところでもう本当に整理してですねどの程度かっていうのを詰めていきたいというふうに思っております。

状況としては以上の通りです。

<昆野座長>

医療の現場の方ではまだ80床で納得いただいてるわけではないという回答ですね。

<桂田室長>

そうですね。基本は80床をベースに・・・

<昆野座長>

ベースはそういう考え方ですよということでのご提案のようでございます。

その他、皆さんの方で何かございますか。

はい、どうぞ。

<伊藤委員>

はい。

伊藤です。

2点ほど伺いたいと思います。

1ページ目、新医療センターの役割の枠の中の本館(新病院)と付属棟、この二つの役割、連携というのをもうちょっと説明をお願いしたい、というのが1点目。

2ページ目、(2)病床規模の中の、現在の水沢病院、実質の括弧の中の病床数における、病床利用率、それから新医療センターの3つの一般病床、地域包括ケア病床、回復期リハ病床の利用率をどのように目標を掲げているのかについて、よろしくお願いします。

<昆野座長>

はい。

本館と付属病院の内容について、もうちょっと詳しい説明が必要ということと、あとは、病床利用率と、将来に向けてのこの実数の利用率をどう考えているかっていう内容でよろしいでしょうか。

はい。

それでは説明をお願いします。

<桂田室長>

はい、ありがとうございます。

本館と付属棟の1ページの部分ですね左下の部分で、新病院とあとは医療機能だけではなくてですね母子・子育て支援サービスであるとかヘルスケアといったところも行います。で、病院はやっぱりある程度感染症のリスクなんかもありますので、自由に誰でも出入りできるっていう施設にはしたくない。一方で、ヘルスケアセンターなんか本当に気軽に来てくださいっていう子どもの遊び場なんかをそこに作ろうかっていうことも考えてましたので。

ということで、一応今のところは管理の面も考えてですね、建物を2つに分けて、並べてですね、行き来ができるようにするんですけども、基本的には入口別々にして並べたほうがいいかな。

或いは、技術的には一棟の建物で、中で物理的に区切ってことも当然できますので、これが必ず2つ分けなきゃってことではないんですけども、今イメージしてるのは本当に病院の部分と、あとそれ以外の付加機能と我々呼んでますけども、そういったヘルスケアとかそういった部分の機能のところを、建物分けるか、いずれ建物1棟としても物理的に分けるかということで切り分けたいというふうに考えております。

<佐々木経営管理部長>

はい。

医療局経営管理部、佐々木です。

座ったままで、すいません。

まず現在の病床利用率の件なんですけど、いろいろ議会等で問題にはなってはいるんですが、要はコロナ病棟というのを専属して設けてたもんですから、実際運用してる1病棟で一般病床とかの一般の入院の患者さんをお受けしたようなところもありまして、実際、コロナが5類になったもんですから、コロナ病床を使ってた部分にも若干混在して入れるような取組みもなってるんですが、実際まだまだ、入院患者さんってのは増えてございません。

正直なところ、95床運用してるのであれば、なかなかその50%くらいまではなかなかいくかないかっていうくらいで、大変厳しい状況になってます。ただ、ベットコントロールといいまして、やはり患者さんを上手くこう入院を集めてくる、医師もどんどん入院で見えるようになってきて、若干入院稼働率も上がってはきてございます。あと将来のこの新医療センターの見込みなんですけど、やはり今、いろいろこの胆江圏域の実態を見ますと、やはり回復期リハの対象になる患者さんが多く見込まれる、ってこともありまして、この部分で40床つまり1棟丸々をそちらの方に充てて、それから同じような回復期扱いとなる地域包括ケア病床と一般の患者さんを併存させる1病棟20、20という部分で、計画はしてるところでございます。ただ、この見込みについても、ちょっとこれはまだ本当に独り歩きなってしまうとあれなんですけど、正直なところ80%ぐらいは入れないと、なかなか収入面でも大変だというところがあって、ここは何かそれを目指して新病院なった際には、頑張っていきたい。

ただこの辺も先ほどもあった通り診療科についても、病床規模についても、まず今の基本的な考えということでお示してるものであって、これはやはり基本計画等々までにはやっぱり詳細を、医師も含め、検討していきたいなと考えてございます。

<昆野座長>

ありがとうございました。
伊藤委員よろしいでしょうか。

はい。その他・・
はい。

<千葉委員>

千葉です。
よろしくお願いします。
1ページの1、5つの市立病院診療所の医療資源最適化ということで、デジタルネットワークということなんですけど。
もう各医療機関なんですけど、だいぶ電子カルテも進んできてましたので、できれば今自院内でだけの保険請求なりやってるわけなんですけど。
他院との病院との情報提供とか情報共有という形でも、できれば各医療機関のですね、そこともITを構築していく方向も考えていただければと思います。
あともう1点なんですけど、回復期リハ病床、40床ということなんですけど、療養型病床群が来年の3月末で終わるということで今度これが結局回復期の40床に充てるってということですかね。
その2点だけちょっと教えていただければ。

<昆野座長>

はい。
よろしくお願いします。

<桂田室長>

それでは1点目の方、私の方から医療資源の最適化というところで、ご質問というのもほとんどご意見という形でお受けいたしましたけれども、その通りでございまして、1ページの右下の方に情報ネットワークの整備ってのはまさにそのことでございました。
新医療施設だけではなく、市立の医療施設だけではなくてですね。
県立病院の公開する、何か連携システムもできてますので県立病院の、それとも相乗りできるような形ですね、民間の医療施設さんの方にも開放して、紹介・逆紹介の時、退院のサマリーを提供するとかですね、いろんな診療情報画像情報なんかをお互いに行き来できるような、共有できるような形の情報ネットワークの整備というのを今、並行して考えていきたいと思ってます。
ありがとうございます。

<佐々木経営管理部長>

今、ご案内の部分につきましてですが、確かに回復期リハ病床の分をその分は充てていきたいなというふうに思っております。
やはり中心となるやはり回復期ではないかなとももちろん思っておりますが、ただ、一般病床等も備えて総合的に見れるシームレスな、っていうのを常々目指してるところでございまして、療養も基本にしながら、或いは救急車も若干軽度の部分、そして、在宅に繋がるような、そういう医療施設であればいいのかなというふうに考えてございます。

<昆野座長>

はい。
千葉委員よろしいでしょうか。

<千葉委員>

はい、わかりました。
ありがとうございます。

<昆野座長>

はい。
その他ございますか。

なければ皆さんの方からそろそろご意見を伺うという時間にしたいと思いますがよろしいでしょうか。

はい、それではですね。

新医療奥州市モデルのコンセプトについてですねまずは伺いたいのが一つと、あとは病床規模について適切なのかどうかという辺りのご意見をちょうだいするっていう形にしたいと思ってます。

それでは名簿順で大変恐縮ですが、金野委員の方から順次ですね、ご発言をお願いしていく形にしたいと思います。

<金野委員>

公募の金野でございます。

コンセプトについては大変すばらしい内容だと思います。

これが実際にね、行われるということは、市民の皆さんにも非常に心強いといえますか、幅広く、自分のね、生活、或いは治療とか含めて、市の方で考えてくださるというふうに受けとめができるかなというふうに思います。それで病床規模についてですが、正直言いましてこの資料を見まして私びっくりしました。

本当にその一般20床で間に合うんですか、ということなんですね。

ちょっと質問ばかりするのも申し訳ないので、何なんですかけれど、懸念されているのは、前回、千田委員さんの方からもお話ありました感染症。例えばコロナの時、ピーク時は何人ぐらい、水沢病院にね、入院されていたのかな、いうふうなことがございます。

それから、先ほどの説明の中で、感染症対策を加味した見直しが必要となっているというんですが、その感染症で入院される方は普通は一般病床に入院されるんだと思うんですが、そういう意味で市民の皆さんが本当にこれで安心できるんだろうか。

20床というと、診療所で19床なんですね、今の医療区分からいくと。20床以上が病院っていうことですが、小さく見ると、本当に申し訳ないですが、診療所規模の病院を積み重ねていくというふうに見えるんですね。

ですから果たしてそれでいいのか。

私東日本大震災の時のちょっと教訓を少しお話ししたいんですが。

県立病院で沿岸で高田、大槌、山田のですね、三つの病院が津波を受けて被災をしました。

全壊というふうな状態でした。

それから内陸では大東病院が地震でやはり壊れましたし、釜石病院が壊れました。

いずれも入院患者さんがいたわけでありまして、翌日から内陸の病院にですね、移送をしたわけでありまして。

大東の場合は千厩病院にすべて入院患者さんに移しました。スタッフも全員。

病棟で働いていた看護師さん達は千厩病院勤務というふうなことで、大東病院の患者さんと一緒にですね、移動して対応してきました。

それですので、県立病院のネットワークの中では、例えば江刺病院は山田からのですね、患者さんの受け入れを行いました。

そういうふうに災害時の医療っていうのは、想定範囲を超える部分がございます。

ですので、いざという時にですね、万が一、水沢病院自体、奥州市内自体で災害が発生していなくてもですね、近隣で災害が発生した場合に、その対応をね、求められる、受け入れを求められるということが考えられます。飛躍してお話しますと、例えば首都直下型地震が、関東とかね、どっかで発生したとします。

そうすると、当然その首都圏にたくさんの患者さんいるわけですが、岩手まで来るかっていうご意見もあるかもしれませんが、岩手からも実は関東方面にたくさんの人たちが行ってるわけですね。

そうすると、故郷に戻って療養したいというふうな方々ということも想定されるわけです。

そういう、あるかないかわからない、千年に1度あるかないかわからない病棟を造るのかっていうご批判もあるかもしれませんが、しかし、公的医療っていうのは、やっぱりそういういざという時に対応できるような、少し余力といえますか、余裕を持っておく必要があると、いうふうに私は考えます。

ですので、この一般病床20床についてはですね、少なくともこの倍以上は必要なんではないかな。

いうふう考えているところであります。

以上です。

<昆野座長>

はい。

ありがとうございました。

意見だったりご質問に含められる部分については、最後にまとめてということで今回も進めていきたいというふうに思っております。

それでは続いて菊地委員の方でお願いいたします。

＜菊地委員＞

はい。

公募の菊地です。よろしくお願いいたします。

私もこちらを見ていて、本当にこのままこのコンセプトで作られるということであれば、本当に期待の持てる内容ではないかというふうに、見ておりました。

そして第1回目の会議の中にもありました通り、もしできるのであればここに分娩ができる施設が、何らかの形で、今後、スタートの時点でも構いませんので、そのような今余力を残したっていうお話があったんですけども、そういうような余地が、分娩ができるような施設が備わってくるような機能をどこかに持たせた、期待の持てるような状況で、これが実現していくと、さらに充実したものになっていくのではないかな、これから本当に子供たちがどんどん減っていくかもしれない奥州市の状況を見てみると、若い人たちがどんどん、何て言うんでしょう、近隣のもう少し活気のある街に何となく住むときに、そちらの方に流れてこう選んでいくような状況が見えてきていますので、ぜひその分娩ができてここで安心して子供を産みそして育てていけるっていう状況、の新しい施設ができるんだっていう、その期待感を、市民の方たち、そしてこれから進んでいく方たちに持ってもらえるような施設になっていただければなというふうに私は思いました。

それから今、金野委員の意見を聞いていてその災害時の医療に耐えられるものっていう意見があって、まさにその通りだと思いましたけれども、どれぐらいの、それが規模が必要なのかともわかりませんし、それがいつ起こるのか本当にわからないので、限られたその財源の中でどこまで可能なかっていうことも検討していただきたいことだなというふうに思いました。

それから、ここに子育ての支援サービスなどっていうことで書かれているところなんですけれども、どのようなのができるかまだまだこれからのところだと思うんですけども、私もまだ行ったことがないのでちょっと資料で見たんですけども、例えば北上市の方のさくら野のツインモールの西館の方に子育ての支援の複合施設の「ほっこ」というものが、数年前にできたというふうに聞いております。

ホームページで見る限り、本当に何か自分がもうちょっと子どもが小さいうちだったら行ってみたいと思うような、魅力のある施設です。

保健センターの機能もありつつそこで健診が受けられ、そして何か相談事があればそこ相談をすることができ、また、雨の日雪の日などに安心して子どもを、思いっきり体を動かして遊ばせられる場所があったり、親子で他の親子、お母さんたちと交流ができる場があったりとか、また会議の場もあって学びの場も提供されていて、キッチンなどもあるので例えば離乳食の教室を開いたりとか、おやつづくりをして楽しんだりとか、そういうこともできるような施設だというふうに聞いております。

ぜひこれから作るものも、そういうものに倣って良いところを真似していただいて、造っていただければなというふうに思います。

あとは1点、この図書館のような機能もそこにもし備わっていて、本当に小さい子どもたちだけでなく中高生のような人達にも利用していただいて、本当に大人から子どもまで、そしてもちろんフレイル対策だとか、そういうものも含めて、いろんな市民が集まれるような場所をこれから考えていっていただきたいなというふうに思います。

以上です。

＜昆野座長＞

はい、ありがとうございました。

それでは続いて佐藤委員、よろしくお願いいたします。

＜佐藤委員＞

佐藤清光です。

よろしくお願いいたします。

この6つのコンセプトを見て非常にすばらしいコンセプトだなと思ったんですが、私は非常にこの計画を見てですね、意見というよりも非常に不安を持ったわけです。

病床数の数も、市立病院にしては、こんなものなのかなあっていうところと、それからあと、5つの市立病院診療所をネットワーク化していくっていう話も書いてありますけれども、5つの市立病院もこのような状態の中で、いつまで継続していけるのかなと。

人口が、もうだいぶ少なくなってきたいつ辞めてもいいような状態になってきてる中で、この市立病院の計画もここに5つを盛り込んであるんだけど、これも本当に将来ここ何年かで、大丈夫なのかなあっていう不安と、それから県立病院の問題もですね。

いつまで胆沢病院ここにあるのかなと私思ってるんですよ、実は。

というのは県の方では、ある計画があるようですね。

胆沢病院、江刺病院、磐井病院を一つにして、前沢平泉インター付近に、県立県南病院、をやろうかなという考え方があそうですね。

県では、県南と、あと中部と県北、でやっていこうかなという計画があるみたいですけども。

県立病院もこれ、いつまであるのかなと、いうふうにちょっと不安でこの連携も、ちょっと非常に心配になったところですよ。

この計画自体も、これら県立病院だとか、ネットワークができなくなった場合に、この病床数で、奥州市民はやっていけるのかな、心配でしょうがないんじゃないかと。

入院するにも、県南、平泉前沢インターの方まで行ったり、中部の方に行ったりっていうですね。

ここにはなかなか入院できなくなるっていうこともあるんじゃないかな、っていうことで非常に不安に思った次第ですよ。

以上です。

<昆野座長>

はい、ありがとうございました。

続いて伊藤委員、お願いします。

<伊藤委員>

伊藤です。

1ページ目の、コンセプトのところになりますけれども、特にこの5つの市立病院診療所の中の(3)(4)(6)の4と6のところが非常に、取り組む中で実効性あるものを作り上げていくというふうに私は思っております。

というのも、経営改善と医師確保対策というふうにありますけれども、これは二つ同時にやっていかないと、多分、できないものだろうというふうに思っております。

そして、その医師確保をするためにも、新しいこの奥州市モデルが本当にドクター、医師の皆さんから、奥州市の新しい病院で地域医療に貢献したいな、というふうに思ってもらえるようなものとなって形となっていくというところが非常に大事になってくると思いますので、この(4)、(6)、これについて本当にですね、いろんな各県内なり県外のところも含めて、成功してる事例もいろいろ研究して、そして奥州市独自の新しい取り組みとしてお願いしたいなというふうに思っております。

そして2ページ目の方の、機能と病床規模というところなんですけど、私最初に病床利用率の方質問させていただいたのは、この実質の95床今現在ある中でも、大体50%ぐらいというのが現状となっているという状況で、実質は、ベッド数は15の減となって、そして、この地域包括ケア、回復期リハ病床を、を中心に組み組んでいくというところをだと思しますので、私はこの80床程度というのは、良い数字ではないかというふうに思っております。地域ケア病床は現在も取り組んでいるところですけども、今の水沢病院は急性期もやっているというところの中で急性期から、地域包括ケアの方に移って、そして計画的に医療を進めて、その入院患者さんが自宅で生活できるように戻してあげるのがこの地域包括ケア病床ですので、こういった取り組みもしっかりと、今後もやっていくと。

ということで今度新しい病院が急性期は外すというふうなことになるれば、その急性期を担ういわゆる県立病院としっかりと連携をとりながら、この地域包括そして回復期リハ病床をしっかり受け入れていく、つまり機能と役割を明確にしていくということが、先ほどの医師の確保、経営改善、これに繋がっていくんだらうというふうに思っておりますので、ここをですね、あの絵にかいた餅にならないようにしっかりと検討していただいて、実行に移していただきたいなというふうに考えております。

以上です。

<昆野座長>

はい、ありがとうございました。

続いては千葉委員の方お願いします。

<千葉委員>

千葉ですよろしくお願いします。

新医療センターの病床なんですけど、私これからですね、超高齢化を控えてですね、それこそ2人に1人ががんの時代ですよ。

そうする時点で痛みとかだるさ、苦痛をですね、和らげていただく治療ホスピスですね、この緩和ケア病棟ですね、ぜひ設けていただきたいっっちゃうか、少し増床していただきたいんですよ。

もうこれからはねもうがんがね、どんどん、2人に1人ですからね、誰罹ってもおかしくない時代になってきました

ので、もうそういう病床ですね、新医療センターには、切に望みます。

そうすることによってですねやはり安心してですね、困窮者でも何でも、もう老若男女、もういろんな意味でも安心してかかれる医療機関ができたということで、安心にもなりますので、緩和ケア病棟ですね、ぜひそれをお願いしたいというのが一つです。

それからですね。もう一つ。

それこそ、これから在宅医療にですね、高齢化なって力を入れてくると思うんですけど、ぜひですね入院の時に、レスパイト入院ですね、これをですね、一つ、例えば介護者の介護疲れの軽減にもなるでしょうし、冠婚葬祭とか、介護者の病気だとか、出産だとかですね、ご家族まで事情によって自主的に在宅看護困難になった時にですね、医療保険に利用してですね、入院できるレスパイト入院をですねぜひ新医療センターには設けていただきたいと。

これだけ私も切に願うとですね、これはどんどん在宅医療に力を入れてきますし、もう超高齢化ですので、もうこれはぜひお願いしたいと切望していました。

あと、先ほども菊地さんがおっしゃった通り、やっぱり産婦人科なんですよ。

私は私なりにやっぱり、ここはやはり本当国の施策で動くんですけど、本当保険が効けばね、一番いいわけがぶっちゃけは。その保険がきかないわけですし、病気ではないわけですからねこれはね。

保険適用外で金額も50万前後かかると。実情は。

それで、奥州市独自でできればっていうこれも私要望なんですけど、マタニティーサポート119番。

これを設立してですね、奥州市独自の妊婦専用の救急車導入。

1000万以上かかると思いますこれは、それからいろんな問題が出てくると思います。

それでこれを、何ですか、母子手帳が発行すると同時に、事前に登録してですね、あとは一関なり、中部病院と、これを搬送すると、その妊婦さんの産婦人科がなくてもですね、非常に安心感が出てくると思うんですよ。

これの一つ、新医療センターにはお願いしたいと。

以上です。

よろしくお願いします。

<昆野座長>

はい、ありがとうございます。

続いて松平委員の方でお願いいたします。

<松平委員>

病床規模の数字を見まして、数字からして、前回の時に一生懸命語った周産期の病床、その辺の確保ができてない、いつかはやっぱり周産医療っていうものもやっていただきたいと思うので、その余力っていうか、そういうもののための予備ベッドっていうか、そういうものも確保できればいいんじゃないかなと思うんです。

それで、救急に関しては胆沢病院、県立病院とかで対応するっていうことですが、昨日私、たまたま行事やっていると、目の前で具合悪くなった人がいらっやしまして、たまたま病院の先生もいらしたんですが救急車を呼んだ方がいいということで、救急車呼びました。

救急車の方はストレッチャー持ってきて、そこでいろいろお聞きして、ストレッチャー乗せて外行っただ、間もなく行っただろうと思ったら、それから30分ぐらいしてからサイレンが鳴って、あれ今までかかって、これから病院に行くんだと。

日曜日でもありましたし、そういうこの病院の確保ができないうちは救急車が出発しちゃいけない。

そういうのを目の当たりにしまして、もう少し本当の、昨日の方はちょっとした体調不良だったようなんですけども、本当の救急の場合には、30分という時間はとっても長いと思うんですね。

そのためにはやっぱりベッド数は、県立病院だけに頼らずに、やっぱり市立病院でも対応できるような、そういうふうな値、方法があっていいんじゃないかなと思います。

周産期のベッド数の予備的確保と、救急医療に対する、そういうふうな対応の仕方についてもう少し検討していただきたいと。

以上です。

<昆野座長>

はい、ありがとうございます。

続いて佐々木委員の方でお願いいたします。

<佐々木委員>

この機を、教えていただいたものですが、一番の地域医療のコンセプトですから、これはやっぱりこれは、

いいなと、これが本当にすばらしいもんだなというふうに見させていただきました。
それから病床数ですけれども、病床数についてはちょっと不安な面もございます。
これからやっぱ高齢化になってって。
フレイルですか、あれのことも検討の課題に入れていただきたい、いうふうに思います。
基本計画ってということでございますから、ひとつその辺を検討をお願いしたい。
終わります。

<昆野座長>

はい、ありがとうございます。
続いて菅原委員の方でお願いいたします。

<菅原委員>

奥州市食生活改善推進員協議会の菅原です。よろしくお願いいたします。
この長い名前を短くして、食改と短くしていつもは言っておりますので、ここに呼ばれた意義が多分、付属棟の構成かなと思ひましてちょっと今事務局さんとお話してきたんですけれども、今食改は理事会とかを水沢保健センターの方でやっておりまして、ただ保健センターではちょっと狭くて調理実習ができないということで、水沢地区センターとか、いろいろなところを借りてやってますけども。
ちょっとそれではやっぱ不具合なので、できれば、調理台が5、6台付いた、さらにはあと、50人、30、30の人を見込んであと中仕切りのついたような、そういう広いスペースを、総会とかなんかできるような、そういう感じのスペースを持っていて、そこで運動とか、いろいろ先ほども、菊地委員さんが言われたように北上のあそことか一関も結構いい子育て支援とかそういう保健センターみたいなものがあるそうなので、いろいろなところを見ていろいろ考えてもらって作っていただきたいと思います。
あとは、病状数なんですけれども。
あまりちょっとね、これから人口増えればいいんですけれども。
こんなはずじゃなかった、というようなこんなに大きなものを作ってしまった、というだけはないようにしていただきたいと思います。
以上です。

<昆野座長>

はい、ありがとうございます。
それでは次、八幡委員さんお願いします。

<八幡委員>

岩手奥州ダブルケアの会の八幡です。
さっき質問のときに本当は言えばよかったんですけど、ちょっと整理整頓ができてなくて言えなかったんですが、地域包括ケアシステムについてなんです、新医療センターはその充実とその一端を担うための医療体制の構築とあり、新医療センターの役割の中に、市立施設の資源最適化のコントロール、連携や資源配分の調整とあり、2ページ目の方の地域包括ケアはまごころ病院と連携しながら訪問看護ステーション体制を強化するとあります。
ここを見ると、病院内でその包括ケアシステムが完結するような感じになってるんだらうなっていうのはわかるんですけども。
市民全員がここの医療センターにかかるわけではなくて、民間病院、個人クリニック、他の介護サービス、他の訪問看護ステーションを使うわけで。
先ほど他の委員の質問のときに電子カルテがあって他の県立病院だったり、民間病院などとも連携が取れるお医者さん同士連携が取れる体制をこれからやっていくということだったと思います。
で、さらに、1ページの図の中に、医療介護連携拠点、連携体制の構築支援とあるんですけども。
これを見ると、なんて言ったらいいかな。
私の地域包括ケアシステムのイメージというのが、この新医療センターだけじゃなくって、民間病院、あと民間の介護施設だったり、ケアマネさんだったり、訪問看護ステーション全部市内の全部を包括的にきちんと情報の取りまとめをして、市民に、適切な情報をちゃんと提供できるのが、この新医療センターなのかなと。
例えば、いろんなところにかかってはいるけども、私は一体どうしたらいいんだらうか、っていう人がここのセンターに来れば、ある程度こう整理整頓してもらえるのかなというふうなイメージでいたんですけども、もしかしたらそうではないのかな、っていうのを一つ疑問に思ったんで質問させてください。
そうであれば、連携体制の構築支援というのは一体何なのかなっていうのを教えていただければと思います。

で、病床規模については、さっきお話された伊藤さん、伊藤公好委員と同じ意見です。

と、今この地域包括ケアシステムの図中に、私とその家族というわけですけども。

私の実家の話ですけども、つい先日92歳の祖母を在宅で看取りまして。

そこに行くまでの間なんですけれども…

すいません。公開会議ですごい公開の会議で、言えるところと言えないってことがありますけども、70の両親も、全く訪問診療、或いは訪問看護がある、或いはレスパイト入院ができる、というそういった情報を全く知らなかったもので、とにかく、死ぬときは病院か施設でしようっていう頭が、ありました。私の両親にも。

ただ、必ずしもそうではないというの、私、勝手な、嫁いで実家を出たのに、ちょっと無責任なこと言えないなと思いつつも、私の92歳のおばあちゃんの状況であれば、在宅で看取りました。

お医者さん、本当はドクターの名前も言いたいですけども、要するに、お医者さんが非常に在宅、終末期、看取りということに積極的なお医者さんだったので、看取り、家でどうかなってちょっと話してみたら、両親ともに、そうか、レスパイト入院ってのができるんだったら、それだったらいいかなということで、やったんですけど、最終的にはこのような形で、最後迎えられて、非常によかったということ、親は言ってます。

ただ、もちろん家で看取るのがいいって言ってるわけじゃないです。

いろんな家の状況がありますし、人それぞれの家庭の事情があるので、それを良いと言ってるわけではないんですけどただ情報がない。わからない方が非常に、多いです。

いろんな方法選択ができるということ、知らない方が多い。特に、回復期っていうと元気になって退院っていうのが今日すごく話されてましたけど、そうはならない方も多いわけで。

そういうこともいろんな方法があるっていうのが、きちんと提供されるためのセンター、医療センターでもあるのかなと思ったりもしました。

はい。

そして…以上です。

<昆野座長>

よろしいですか。

はい。

それでは千田委員、お願いいたします。

<千田委員>

ひたか会の千田です。

まず一つは一般病床の20人程度っていうやつが、特に震災の時に水沢病院は沿岸部の方々の、転院っていうかね、水沢病院に受け入れたということで、今までそこそ60%から70%の病床稼働率だったものが一気に90%にはね上がったというのはね。

そういうことがありまして、非常に助けられたと、というような経験があります。

それがですね一般病床だったのか、いわゆる或いは回復期っていうか地域包括のね、部分、それらに含まった形だったのかちょっと今のところは、よく検討してないからわからないんですけども。

そういうようなところっていうのは、ありますけども、ただここは30年以内にそういう大きな地震が起きるというように、ことが言われておりますので、そういうようなところで、胆沢病院とかなんかとの連携をですね、より密にしていきたいなというふうには思います。

特に一般病床についてはですね、漏れないようにやっていただきたいなというふうに思います。

それから回復期リハの病床ですけども、おそらく整形外科が中心なんじゃないかなという感じがするんですよ。その中で整形外科のドクターと、それからあと理学療法士、作業療法士、言語療法士、それらの方々のスタッフ。それらをどのような形で、募集というか力を入れてくのか、そういうことなんかも含めた形でのこの提案なのかどうかっていうことがちょっと見えてこない。

そのあたりをちょっとお聞かせ願えればというふうに思います。

意外と40床っていう数は結構大きいんですよ。

おそらく回復期だと整形外科といっても脳梗塞とか、脳疾患ですねそういうようなことなんかも含めてのリハだと思しますので、あとは整形外科のそういうリハビリの方に移るんじゃないかなというふうに思いますのでよろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

<昆野座長>

はい。

皆さんから意見をちょうだいいたしました。

沢山ありましてですね整理するのが非常に難しいと思いますが、事務局の方でまとめていただいてご説明をお願いしたいと思います。

<千葉委員>

あの、すいません。千葉ですけども。

最後に1点だけいいですか。

<昆野座長>

はいどうぞ。

<千葉委員>

外来なんですけどね。

2時間待ちで結局3分診療というのが今通例じゃないですか。

こないだのロータリーの方で何かQRコードの標注ということで4か所。私もめぐりました。

非常にいいですね、あれは。

そしてできれば私診察券ですね、QRコードもつけちゃってですね、診察する前に受け付けするわけですけど、その前にもQRコードで例えば自分が整形とか内科にかかった時点で、そのスマホをかざしてですね、自分の待ち時間どれくらいあるとか、それからあとその受持ちの看護婦さんがですね、タブレット持ってですね、例えばそこで検査だとかレントゲンだとかいろいろその患者さんによってはあるわけですけど、どれくらいの待ち時間なるか情報ですね、ぜひスマホをかざしたときに見れると。

それじゃないと2時間ずっとですね待ってですね、トイレにも行けない、何もできない状態でずっと待ってるわけですね。

すごく苦痛なわけですよ。

なぜかっていうと結局具合悪くして来てるわけですから、ですからその時間的な短縮をですね、このQRコードをうまく、利用者目線で新医療センターにはこのQRコードをうまく利用した形の待ち時間短縮、これをぜひお願いしたいと思います。

以上です、すいません。

<昆野座長>

はい。

ありがとうございました。

<金野委員>

あの、すいません。

私ももう1点。

<昆野座長>

はい、どうぞ。

<金野委員>

すいません。

公募の金野です。申し訳ございません。

疑問がですね、一般病床20床程度というふうに書いてありますが、ワンルーム何人部屋ですかということなんです。

これが個室が、全部ね個室であればいいんですけど、例えばその4床室とか4床2床というふうになった場合、例えば男女っていう当然ミックスできないわけです。

だから20床あればいいんじゃないかって言うかもしれないけど、20床フルに入れることっていうのはかなり難しい話になってくるんです。

ですから、そういう部分も含めて、ぎりぎりの体制を取るっていうのは、非常に満床状態を常にね、維持していつてそれで経営が成り立つんだというふうな、考え方かもしれませんけど、ちょっとそれでは順番待ちになる患者さんがね、市民がたくさん出てくるのかなっていう感じもしますし。

それから休日夜間の入院は前提としていないのでしょうか。

救急のためのベッドを用意するとなると、この一般病床20床のうち、男女各1をですね、あらかじめ確保してお

かなきやいけなくなるんですが。

二次救急輪番制からも外れて、まるっきりうちは、回復期中心ですよ、というふうなことで救急医療からも全部退くのか。

先ほどお話あったように胆沢病院一つでは、本当に救急車3台4台って連なった場合にどうすんですかっていうことが求められるかというふうに思います。

以上です。

<昆野座長>

はい。

ありがとうございました。

いろんな質問だったりいろんなご意見もちょうだいしたところですので整理して欲しいなというふうに思っております。

ただ私的な希望もちょうと発言させていただけるとするのであれば、まず病床規模なんですけど、適正数がちょっとわからないので、この数字でいいのかどうかっていうのは、判断しかねるところではあるんですが。

市民の方が121床今あるのに20床になったって言った時に不安になると思うんですね。

その辺を緩和するような、何かこうこしらえ方っていうののなかなっていいのが一つ。

適正数ですよっていうような説明が加えられるのであれば、それでいいというふうに思っております。

それから行政サービスの部分としては保健センターの機能、保健センターの施設自体が非常に老朽化しておりますので、この部分については新医療センターの方の機能に必ず付け加えていただくように、ということで私も要望したいなというふうに思っていました。

それからちょっと言語化するのが下手くそなので最後の部分なんですけど、このコンセプト自体については、こううたってあるのは非常によろしいかと思ってるんですけど、特にそうですね、地域包括ケアシステムの部分については私も八幡さんと同じ考え方なので、新医療センターの機能は医療ベースだけの地域包括ケアの謳いになかなってないので、これ奥州市全体のものとしてどう機能させていくのかっていう辺り、そこの充実のところはどう関わっていくのかっていうのを、もうちょっとこう明確化して欲しいというのと、最後なんですけど、奥州市民の欲する医療って実は何だったんだろうということと、あと奥州市として求める機能ってこの新医療センターに何を求めているのかっていうのはもうちょっと明確化して欲しいな、っていうふうに思っていましたので、このあたりちょっとお願いしたいなというふうに思います。

それでは事務局の方でご発言をお願いしたいと思います。

<桂田室長>

はい。

ご意見ありがとうございました。

本当に多岐にわたるご意見でしたのでちょっとその一つ一つっていうことにはならないんですけど、もう1回今のを振り返りながらですね、資料の方を元にしてですねちょっと説明していきたいと思います。

最初に1ページのところの、地域医療の方向性と新医療センターの役割という部分で、方向性といいますか6つのコンセプト、こういったところについては概ね了解していいですかよろしいというふうに言われたのかなというふうに思ってます。ただ、その中でちょっと地域包括ケアシステムの充実ではちょっとよくわからないというご意見がございました。

大きくはですね2つの中身があります。一つは新医療センター或いは5つ市立病院が一丸となってですね、その中で地域包括ケアシステムを充実しながら医療を提供していく。

介護とか、連携してきますし回復期を重視したりとか、あとは在宅医療に力入れますといったところはまさに地域包括ケアシステム充実に関わるだろうと、いうことがあります。

もう一つが5つの市立病院、診療所だけでですね地域包括ケアシステムが成り立ってるわけでないとはその通りでございます。

新医療センターを整備したことによって、その医療介護の連携拠点というものを、機能をですねそこに持たせまして、医療と特に介護の部分ですね、今も連携はしてるんです、やっている部分はやっています。

ただどうしてもですね、まだ完全に普及してるとは言えなくて、今もそれぞれの顔がお互いわかるようになってことで合同で集まってですね研修会やってみたり、そういった取り組みをやってるんですけども、まだまだちょっと不十分なところもあるということで、ここの連携拠点をしっかりですね、介護従事者、医療従事者の方々の連携の体制を市の方としてしっかり支援していくという、サポートしていくというような位置付けです。

普及してない理由の一つがですね、やっぱりその医療従事者が介護従事者向けに情報提供するのに、もう1回なんでしょうね、それ用にまた編集、何かこう文章作ったりなんなりっていうようなことがあったり、っていうところ

ろがです、2度手間って言いますかそういったところもあって、だったらばっていうことで情報ネットワークの整備ってのはもう一つの肝になるんですけども、地域包括ケアシステムの中ですね、電子カルテであるとかあと介護サービス事業所等も大部分をシステム化進めますので、そういったのをお互いなんていうか改めて情報を作るんじゃないくて、ある情報を利用して、簡単に連携できるようなシステムそういう仕組みというものをつくれれば、ますます連携が進むだろうということで、一つは市立病院の中での地域別ケアシステムを充実させるのと、あとは、地域医療全体を見てですね、そこで各医療施設或いは各サービス事業所との連携を深めるための取り組みもそれはそれ行政として進めていく、その二つの方向ですね、進めていきたいというところがございました。

それと2ページ目の方に行きましてあとは機能の方で言われるのかなと思いますけど、やっぱり分娩機能欲しいっていうのは前回もそういうふうに言われておりますので、マタニティーサポートの部分、専用救急車の導入なんていう面白いアイデアをいただきましたので、こういったところは何でしょう、広くですねここはやっぱりしっかり引き続き検討して参りたいというふうに思っております。

あとはその病院の医療機能ではない部分で、あと調理室や会議室を欲しい、保健センターですね、今ある保健センターの機能をちゃんと引き継いで欲しい、というようなところもありましたし、あとはフレイル対策とか、そういったところ、それから外来の方ですね待ってる待ち時間を短縮するための工夫も欲しいというようなことも言われておりましたので、そこもしっかり取り組みたいと思います。

あと質問だったかと思うんですけども、回復期リハビリするんであれば、病床数の関係か、回復期リハビリするなら整形外科ですよ、それに伴って理学療法士さんとかスタッフ必要ですよっていうその通りでございまして、新医療センターができました、できます、だからそこから急に回復期リハビリ始めます、というのでは人材やっぱり確保できないので、その方向性がこう決まったらですねそれに向けてやっぱり今から仕掛けをしていくってことが大事だと思いますので、その理学療法士さんとかの医療スタッフなんかも、この方向を向くということであれば、段階的にですね、やっぱりその募集して人材を確保していくというようなことが必要だろうと、整形外科の先生ももちろん確保していく努力が必要だと、ということになると思います。

それからあとはちょっと漏れたのはちょっと医療局さんの方で、最後お願いします。

あと病床数に関しては、そうですね災害を想定して倍は欲しいなんていうご意見もありましたけども、何といいますか本当に何十年に一度東日本大震災クラスの災害があればですね。

そこはもう本当に野戦病院ではないんですけども、市内の施設あらゆるなんなら水沢体育館とか使って、隣の保健センターも全部病室に変えてですね、もうそういうレベルであればそういった対応が必要なんだろうというふうに思っていました。

常日頃から、そういうののためにベッドを用意するってのはなかなかそこは難しいんですけども。

ただ、これからの医療を考えて、やっぱり何かの時のために、コロナなんていうのも経験しましたので、やっぱり余裕欲しいよねっていう気持ちはすごくよくわかります。

だからそこはどの程度がいいのか、全くきちきちではちょっとっていうのは、公立、やっぱり病院としての役割を少し考えればですね、余裕というのも確かに希望されるということは理解できるということでそこも検討していきたいと、いうふうに思ってます。

あとあれですね、抜けてましたあと、機能のところ、子育ての部分で北上さんの「ほっこ」という話出てまして、これ、こちらもちよっと思っていました。少し真似してっていうことでしたけども、ちょっとそういう方向で、あと図書館ということもあったのでそういったところもちよっと考えていきたいというふうにちょっと思ってたところでございます。

それからあと緩和ケアとかレスパイト入院もできればってようなお話もありました。

これはもうまごころ病院さんですでに実践されてるところでございまして。

新医療センターでも当然必要な機能だろうというふうに思っていましたので、そこをどういう形で取り入れるか、検討して参りたいと思います。

では概ね80床程度がちょうどいいとこじゃないですかって意見もありましたけども、もう少しやっぱり余裕あった方がいいんじゃないですかってご意見もあったので、そこら辺はしっかり受けとめてですね、これからの病床数の、ここはいただいた意見は先生たちにもフィードバックしてですね、しっかり考えていただきたいというふうに思ってます。

医療局さんからちょっとフォローあれば。

<佐々木経営管理部長>

はい。

ありがとうございます。

今、桂田室長がおっしゃった通りが包括されてるかなと思うんですが一つやはり、気になるのは、やはり市民に不安を持たせないような医療機能を持たせるっていうことは、本当に基本かな、市立病院としてあるべき姿はそ

こなのかな。

ただ一方やはり医師の働き方改革とか、医師確保の状況からいってなかなか対応できないパターンも出てくるのかなと思ってます。

やっぱりそのためにはやはり、ドクター、或いはスタッフたちがちゃんと連携して話し合いをしていくことかなと、そこが基本ですというふうに考えております。

あとやはり県立病院さんとの話し合いも継続していきながら、どういう役割をしていくのかっていうことがやっぱり根底には必要かなと思ってます。

その辺も進めながら、新しい病院で安心してこの医療を受けてもらえるっていうのが、医療局のもちろんねらうところでございます。

そしてあと周りのその病院・診療所もやはり存続するということが基本にございますので、どうやったら存続できるのかっていうのを考えながら、これも連携を図りながらやっていきたいと、いうふうに思っております。

病床数についてもその通りなので、どこが適正規模なのかって非常に議論が分かれるとこだと思いますが、その辺の現場の方の先生方の意見も聴きながら対応して参りたいと、このように考えてございます。

<桂田室長>

すいません、ちょっと1点補足で、追加をお願いします。

県立病院の話、途中で出てまして、ちょっと不安に思う方いらっしゃると思うので、胆沢病院と磐井病院が何か一緒になって、何か一つの病院できるらしい、胆沢病院なくなるんじゃないのっていうような。

なんかそういうふうに思われるとちょっと違うのかなと思ってまして。

今、胆沢病院がここら辺の圏域の基幹病院ということで、急性期とある程度の高度急性期っていう領域。

やってますなんかあのロボット手術システムがすごい、はい、高度な機械を使って。

その高度急性期の部分がですね、やっぱりいろんな機材とか高い機材とか、専門の、特に専門の先生が欲しいとかっていうことがあると、なかなかちょっとあちこちってのは難しいということで、ハイボリウムセンターっていう名前、それとは別にその外科手術、高度な外科手術だけを専門にやるような、何かそういったところが必要なんじゃないか、っていうことで今検討始まっているということで、それができたっていうのも決まったわけではないです、まさにこれからの検討ということで、これも限られた医療資源をどうやっていくか、で、胆沢病院がここら辺の急性期を担っていく。

その中でも本当に決めて高度なものは、ちょっと少し遠くに行かなきゃ駄目になる、かもしれないけども、胆沢病院で急性期やらないっていうことではないということでこちらは理解しておりましたので、そこはお伝えしておきます。

<佐々木経営管理部長>

すいません、先ほどちょっと言い忘れましたけども、市民に不安がないような病床数という中で一つ。

一般病床が20床程度でありますけれども、これはあくまでも、地域包括ケア病床20、20の中で変動交互可能な部分でございますので、例えば一般病床30地域包括ケア10床ということも、状況見ながら変動できますので、それじゃちょっと言い忘れましたので、追加させていただきます。

<昆野座長>

はい。

事務局からの回答の方はちょうどいいところです。

皆さんのご意見の中で漏れたところみたいなものってありますか。

大丈夫ですか。

はい。

もう始まって1時間以上経っているわけでございましてですね、次の方の話題に移ってもいいかなというふうに思うわけですがいかがでございましょうか。

はい。

急ぐようで非常に申し訳ないのですが、皆様方限られたお時間の中でいっぱいご発言をちょうだいしたいというふうに思っておりましたので、次の方に進めて参りたいと思います。

続きましては新医療センターの設置場所ということで、今回どこに建てたらいいでしょうというあたりのご意見をちょうだいしたいということのようでございます。

まず事務局の方でご説明をお願いいたします。

<佐藤主査>

はい。

それでは私の方から新医療センターの設置場所についてご説明いたします。

資料は3ページをご覧ください。

新医療センター建設候補地の選定経過でございます。

建設候補地の選定にあたっては、これまで市民の皆さんからいただいた意見も踏まえまして、郊外、市街地、現地建替えの地域属性ごとのプランについて、利用者の利便性、それからまちづくり拠点としての可能性、建設コストの低減のこの3つの観点から、検討した結果、市街地に建設するのが適当なプランであるということで選択いたしました。

資料、次、4ページをご覧ください。

選択した候補地とその理由です。

市街地のどこに建設すべきか検討した結果、次に挙げる4つの理由から、水沢公園の陸上競技場及びその周辺を最適候補地と考えております。

選択した理由の1つ目としまして、利用者のアクセス面での利便性。

具体的には公共交通の充実、国道や高速道路とも近く、市内外からのアクセス面で利便性にすぐれているといった点でございます。

2つ目としまして、ネットワーク型地域医療体制の中核となり得る適地。

民間の医療機関が集中しておりまして、胆沢病院とも近く転院や紹介・逆紹介など、相互アクセスが容易であるという点でございます。

3つ目としまして、まちづくり拠点として、多世代が集まるエリア。

今後策定する水沢公園のリニューアル計画とあわせて公園機能の活用が可能で、多世代が利用しやすいエリアとであるといった点でございます。

4つ目、コストの低減です。

市で所有する土地あるため、土地の取得費がかからないこと。

それから立地適正化計画における誘導区域に想定されるため、国からの補助が見込めるという場所であるといった点でございます。

資料の5ページ目をご覧ください。

建設場所について、市民の皆さんからよくいただく質問をQAとして整理したものでございます。

水沢公園はなくなってしまうのか、ということについては、陸上競技場とその周辺の建設ということになりますので、それ以外の部分については、今後再整備は必要となりますが、公園としては維持できるというところがございますし、陸上競技場の代替地については、令和9年の開園150周年リニューアルによって、再整備の中で、健康増進や遊び場としての機能は残していきたいと考えております。

次は周辺住民をはじめ、通勤など水沢公園の前の道路を利用される方が一番心配していらっしゃる場所かと思っておりますけれども、新医療センター建設によってさらに混雑するのではないかと、ということについては、右折レーンやバスロータリーの設置など、渋滞緩和に必要な整備について検討いたします。

あとは胆沢病院と近すぎるのではないかと、ということにつきましては、奥州市モデルでは、救急や高度医療を胆沢病院に集約しまして、新医療センターは回復期を重視した医療に特化していきたいと考えておりますので、類似する病院が近くにあるということではなくて、相互に補完しあえる医療施設ということになりますので問題がないものと考えております。

以上で説明を終わります。

<昆野座長>

はい。

説明が終わりました。

この後は皆様方・・・

ただいまの説明の部分でご不明な点等がございましたらまずは質問を受け付けたいなというふうに思いますが、いかがでございませうでしょうか。

もし質問がないのであれば直接ご意見の方ですね述べていただこうかというふうに思います。

これ、それではこれも金野委員からお願いいたします。

<金野委員>

はい。

公募の金野です。

設置場所については、基本的に賛成です。

非常に良い場所だなというふうに思います。

ただ懸念されるのは、この公園を挟んでいる両側の道路が非常に狭いということですね。

ですからできれば、この際、4車線ぐらいのね、道路に拡幅できれば、一番いいなというふうに思うんです、渋滞するっていうことがね、例えばですよ胆沢病院に向かう道路と、この新しい医療センターに向かう道路一緒っていうケースも出てきますよね。

その進行方向によっては、ですから、そういうふうな専用道路といいますかね或いはその拡幅とかそういったことをですね、お願いをしたいなというふうに考えています。

以上です。

<昆野座長>

はい。

ありがとうございました。

続いて菊地委員の方でお願いします。

<菊地委員>

はい、公募の菊地です。

私も個人的には、このニュースが最初に1月ごろに出てきた時に、私は個人的には、自宅が近いもんですから近いところに行けるんだというふうに好意的に受けとめました。

ただ、先日の会議でも申し上げました通り中上野に在住している友人はすぐに連絡をくれて、大変だ大変だ、どうしようあそこに行きたらどうしようっていう話をするんですね。

なぜそう思うのって言ったら、やっぱり自分の住んでいるところがすごくやっぱり渋滞してしまったりとか、駐車場問題ですね、自宅のところに勝手に停められてしまったり、出たい時に混んでいて出れなかったり、そういうことがすごく心配だというふうに話していました。

その友達にすぐにおそらく、すぐに住民の説明会など開かれるだろうから、そこでそういう懸念を話したらいいんじゃないの、っていうのアドバイスをしていたんですけども、そこから結局半年、1年近くたとうとしているところでそういうものがまだ開かれていないということでしたので、先日もそのような、あの機会は設けられないんですかっていうふうに私質問させていただいたと思うんですけども、その時に、水沢南地区センターで、自治会長さんたちの集まりが10月にあり、そのあとに11月になってから8日と11日に住民の方たちに行われますということだったので、その通りに私はその友達に伝えたんですけども、こちらのご案内をいただいて、見たら、水沢南地区センターではなくて水沢地区センターだとわけですね、すぐに友達に謝りの連絡を入れました。

私勘違いして南地区センターだと思いましたけれども、水沢地区センターでしたと。

しかも内容的に私は住民の不安を聞いたり、座談会的なざくばらんにお話ができる場が設けられるのかなというふうに思っていたので、ここに確かに市民の意見を聴く会とはあるんですが、中部病院の先生がいらっやって、新医療センターがどんなものなのか、何がこれから変わるのか、っていうのお話をいただいて、多分その講演を聞いてそれに対する質問をちょっと投げかけるような場になっているのかなと、ここからは想像しました。ご忌憚ない意見をなんでもくださいみたいな感じには受け取れませんでした私は。

なので、その友達がそこに行けるかどうかもちっとわからないんですけどちっと遠い場所なので、また少し今日も意見述べてくるねっていうことで預かってはきたんですけども、やっぱりその地域、本当にすぐ近くの地域住民は不安に思っていると思います。

実際その市の側からすると、候補地が決定してからじゃないとその地区の住民には、説明会など開けないっていうふうに思ってるんじゃないのかもしれないですけども。

最適候補地としてニュースに取り上げられたからには、皆さん不安に思ってるわけですね。

先ほど4車線化というお話があって、ちょっとびっくりしてしまったんですけど、確かにそれは実現すれば素晴らしいことではあるんですけど、そこに住んでるものの土地が奪われてしまうかもしれないということなので、いろいろあるでしょうけれども、その場所だけが混むだけではなく実はそこを避けるためにその近隣の道路が混んでいくわけなんですよ。

私はその一本裏側の通りに住んでおりますので、その通りがおそらく抜け道として、朝晩使われて、もう少し交通量が増えたり、速く走る車が出てくるのではないかなという懸念を抱いています。

先日Kマートの前でまた事故が起きました。

高齢の男性がなくなつたと聞いております。

実は私の祖父が3月に同じ場所で、祖父というか義理の父ですね、同じ場所で命を落としているわけなんです。あの地区、本当に交通も危なくてですね、何とかならないかなというふうに、そちらの方もすごく心配をしておたわけですけども。

小学生の事故も、3週間ぐらい前でしょうか、あったと思います。

また場所は変わりますけれども、渋滞だっというようなニュースが入りましたけれども回復しているということで、安心してはいたんですけれども、本当に交通事故危ないですし、その裏道のところが結局、通学路、南小学校の通学路にあたりますので、あの場所の交通量が増えてくるとまたそういう危険性も出てくるのかなというふうに思っています。

で、ここが水沢公園のグラウンドが最適地だってある、最適であるってことは私も最初に申しあげました通り、賛成ではあるんですけれども、やっぱりそういう心配の声もたくさん聞かれますので、早い時期に本当にピンポイントの中上野だったり西上野だったりという地区の住民たちに、ぜひ意見を聞く場を設けていただきたいなというふうに思います。

そこに住んでいるものじゃないとわからないような不安もたくさんあると思うんですね。

それが解決されるかどうかわかりませんが、それをこの話し合い、決定してから、話し合いの場を持つとどうしても全部なんか反対意見っていうか、その決定されたことに対して反抗しているみたいな形になってしまいますので、今の段階でどんな意見があるかってことをたくさん吸い上げてその懸念を一つ一つ取り去っていくことで住民の理解もえられていくのではないかなというふうに思っています。

はい、以上です。

<昆野座長>

はい、ありがとうございます。

続いて佐藤委員さんお願いします。

<佐藤委員>

佐藤清光です。

私はですね公園は反対ではないんですが、その前に市でちょっと離れたところ、水沢農業高校のところを、候補地として挙げただけでも、これにも大分、市の方では、時間や準備をかけてあの場を設定したのではないかなというふうに思っているんですけれども、ちょっと強く反対する方がいると、ぱっと止めてしまうと。

どうも市では、大変申し訳ないですが、信念がないなと。

それでなぜかという、場所は公園でも別にいいんですけれども、これからまちづくりを考えた場合に、市ではやっと思えてきたスマートインターチェンジ、これの活用が全然なされてないんですね。

これに、あそこに病院ができることによっていろんなものが、できてくるんじゃないかなと、いうふうにも考えたんですけれども、それもできないで、スマートインター、いまだにほとんど、何もできたばかりで活用されてない、というふうに思うんです。

周りの人方や、水沢の市街の人たちに聞いても、別にその場は反対ではないっていう人が結構いたんですが、聞くとところによると、ある強い方が反対して、取り下げになったというふうに聞いているんですけれども。

ただ心配してるのは、公園でもいいんですけども広さですね。

本当に駐車場なんか、あれでやっていけるのかなあと。

職員だけでも相当な台数止まると思うんですね。

それに患者さんとか、さっき言ったの食改さんの方でも話あったんですが、そういう関連した施設なんかができると、駐車場本当に大丈夫なのかな、というふうな思いをもったんです。

それから公園なんですけれども、今まで公園っていうのはもう大分古くなっちゃって、若い人たちが集まれる公園ではないと。

もっともっと新しい施設ですね、例えばバスケットのスリーオンスリーだとか、あとクライミングの施設だとか。

そういうなんだったか、スケートボードですか、ボードで遊べるような施設。

それからスカッシュだとか、そういう若い人たちがどんどん集まれる場所をつくれれば、もっともっとにぎわってくるんだろうし。

それから病院の後ろでですね、花見をこれからも、するのかなと。

ちょっと胆沢病院を考えると、胆沢病院の後ろにも花が桜の季節には咲くんだけれども、あそこで花見しろってでも、ちょっといまいちなかなかそりゃ嫌だなというふうに思うんですけれども。

そんな観点で、別に、公園だろうが、どこだろうが車であれば私たちはその3キロ、4キロ離れてもそんなには違いはないんですけれども。

本当に公園で大丈夫なのかな、っていう気持ちを持ってました。

以上です。

<昆野座長>

はい、ありがとうございます。

続いて伊藤委員、お願いします。

<伊藤委員>

はい、伊藤です。

私も候補地につきましては、基本的に賛成でございます。

先月、9月にですね、都市計画の方で開催した立地適正化計画の住民説明会に参加をした際にも、今回のこの立地適正化計画素案について、しっかりとこの水沢公園まで、この都市機能誘導区域を作るというふうな説明があり、そして将来的に水沢公園、これも再整備をしていく。

そして市街地内の道路の安全の確保にも努めていく、というふうなお話がありましたので、今回のこの新医療センターの建設候補地の説明とリンクしているなというふうなところで、安心をしておりますが、もう実際、この立地適正化計画と同時進行で進んでいくと思われますので先ほど来、話が出ているような市民の皆さんの、まだ説明っていうのが、この前も、9月の説明会では、本当に数えるぐらいしか人が来てなくてですね。

立地適正化っていうのを、住民の皆さんがどれほどわかっているかっていうのは非常に疑問なところがございますので、そういったところをですね、本当に粘り強く、周知をしてわかっていただかないと、いざ建てるというときにまたいろんな不安が出てくるのかと思いますので、しっかりとこういうふうな計画を立てて、国の補助金も入るよというふうなところを、もう本当に口が酸っぱくなるような話、聞いている人と聞いてない人いると思いますけれども、努めていただきたいなと、いうふうなところで考えております。

以上です。

<昆野座長>

はい、ありがとうございます。

続いて千葉委員お願いします。

<千葉委員>

千葉です。

私も誠に申し訳ないんですが4時から仕事入ってましたので、私この意見述べたら、退座させていただきます。

それで、さっきも病院なんですけど、やっぱり病院建設っていうのはまちづくり、地域づくりと一緒にこれ考えないといけないと思うんですね。

これをコンセプトにしてですね、一対にして。

移動手段なんですけどやっぱこれから高齢化社会ですので、もう10人に1人はもう80歳以上という時代に超高齢化になってましたので、私も今年前期高齢者、5年後にちょうどできるときに、後期高齢者になるわけです。

そうすると、私マイカー依存よりむしろですね、交通網優先的にここを考えていただくなれば、もうEVの無人のドライバー、これも導入も、5年後に控えてもうはこれから準備するということも大事だと思います。

それから、県交通さんのバス見ますともうほとんど空気運んで、走行しますわね。

ですからこれも、盛岡と同じようにでんでんむし号みたいに右回り左回りとか、とにかく100円でもいいですけど、少しく安価にですねコンパクトなバスでですね、移動できる手段、つまり、もう車に依存しなくても、そういう社会づくりをですね水沢も構築していく必要があるんじゃないかと。

もうお年寄りばかりですよ、メイプル周り見てくださいよっ誰も歩いてませんよ。

本当歩いて恥ずかしいんですよ、極端な話、もう完全に高齢化ですからね。

ですからそういうところも、整備してそこを優先的にしてもらってその利便性と安全確保、それはネットワーク型コンパクトシティにですね、急速に進むわけですから、そこをとにかく新医療センターと同時に進めていく必要があるんじゃないかと私は考えてました。

以上です。

すいません。

あと仕事なもんですから、退席させていただきますんで、よろしくお願いします。

ありがとうございました。

<昆野座長>

はい、ありがとうございます。

退席の件についても十分理解いたしました。

それでは賛成ということでよろしいんですね。

<千葉委員>

はい、いいです。

<昆野座長>

はい。

続いて松代委員お願いします。

<松平委員>

はい。

あたしもう、なんか遠くからこう来るっていうことを考えると、うちの方はバスも通ってなくなってしまいましたし、やっぱり車に頼るしかないんです。

この場所に職員さんの駐車場をとったり、万が一、その行事があった場合に、ちょっとぐらいいいだろうみたいな形で行事をやる体育館とか野球場、テニスコートの行事をやる人たちの駐車場も兼務兼任になっていかなかったという。

救急で病院に行きたいっていうときに、予約で病院に行きたいっていうときに車止める場所もないってというのはちょっとあれかなと思って。

周りに行事をやる人たち人の駐車場もないわけですよこうなると。

だからその辺のところもこう、住み分けっていうか、そういうふうなものも少し考えていただかないと、バスも通ってないところから出てくるのには、何か心配で。

今も水沢病院に行くときは、夫の診療の時は私が送ってて車はうちに戻します。

電話かかってきたらまた迎えに行くと、そういうふうな状況で、駐車場の確保できないときの対策をとっておりますので、その辺の行事との関連、どっちがどっちにしても止められないってというのはちょっと辛いんじゃないかなと。

その辺のところも考えていただきたいなと思います。

はい。

場所に関しては、いろんな方たちの意見と一緒に私も賛成です。

はい。

以上です。

<昆野座長>

はい、ありがとうございました。

続いて佐々木委員お願いいたします。

<佐々木委員>

場所については全然賛成いたしますけれども、総合的に公園の整備も検討する必要があるんじゃないかというふうに考えられますが、その辺も一つ、考えていただきたいというふうに思います。

<昆野座長>

はい、ありがとうございます。

それでは菅原委員お願いします。

<菅原委員>

はい。

食改の菅原です。

場所についてはいいんですけれども、跡地をどうするかってのも考えて、いつも何かちょっと私主任児童委員もしてるんですけども、学校再編とかやったときに、急にやって、あと、給食施設、調理施設もそうで、なんかちょっと一つ一つ個別ばっかしで、総合的な計画がないので、長期ビジョンに立って、ここやったら、何かね、何て言えばいいんでしょうかね。

片手落ちにならないような形で整備をお願いしたいと思います。

以上です。

<昆野座長>

はい、ありがとうございました。

八幡委員さんお願いします。

<八幡委員>

はい。

八幡です。

すみません、また伊藤さんと同じ意見になるんですけども、私も先日立地適正化計画の説明会に行きまして、その時の話とリンクしていて、そういった部署との連携も図っていけるのかなと。

あと国からの補助がえられるということで、ちょっと安心をして、話を聞いていました。

あと、その住民説明に関しては、それこそ菊地恵委員が言った通りかなというふうに思いますし、あと、すみません本当後出しなので全部他の方の意見とね、あと跡地のことについても、ちょうど言っていたので。

はい。

以上です。

<昆野座長>

はい、ありがとうございました。

それでは千田委員お願いいたします。

<千田委員>

ここの、場所については賛成です。

ただどの程度建物が建つのかってことはちょっとわからない。

2階建てなのか3階建てなのか、或いは平家建なのか。

その辺のところは全然わからないし、それから体育館そのものも、これを残すのか、壊すのか。

それもよくわかんないし、第一に駐車場がこの程度で果たして間に合うのかどうかってこともあるし、その辺はちょっとこれだけではわからないってということで、次の機会にそういうことも含めてやっていただきたいなというふうに思います。

回復期とかなんかの場合は、できれば2階建てぐらいがちょうどいいんじゃないかなという感じがします、3階4階5階っていうふうになってくると、回復期の人たちって以外と、自然の景色とかなんかを見ながら、療養に励むということが多いので、あまり高いところにやらないほうがいいんじゃないかなという感じがしますけども。

ただそれが結構予算的なものもありますのでね。

どこで折り合いをつけるか、その辺はちょっとわかりません。

いずれよろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

<昆野座長>

はい、ありがとうございました。

委員の皆様方ほぼ、場所については賛成という方向でまとまったようでございます。

ただ懸念されるのが、駐車場の問題だったりとか、あと公園のそもそも整備の状況と、体育館等々の施設もどうなっていくのかよくわかんないのってということと、跡地活用って言ったらいいんでしょうか跡地処理といったらいいんでしょうか。

そのあたりについて意見をちょっと確認させてもらいたいっていうのが内容だったと思います。

事務局の方でご説明をお願いいたします。

<菊地未来羅針盤課副主幹>

はい。

未来羅針盤課の菊地と申します。

ちょっと私の方ですね、まちづくりという感じでちょっとお話をしたいなというふうに思います。

新医療センターを水沢公園に建てるという、一つはことですけれども。

その発想の原点の一つとしてはですね、やっぱりにぎわいを取り戻したいというようなことも一つ大きな点でありました。

それで今ですね、まさに未来羅針盤図というですね、奥州市全体の開発デザインみたいなものをですね、今作っております。

11月の中旬にですね、市政懇談会はありますけれども、その中で皆様方にお示しをしたいと思っておりますけれども。

そのプロジェクトの中の一つとして、水沢市街地プロジェクトっていうのがあります。

まさにですね、その水沢市街地プロジェクトの大きな一つの重要プロジェクトはまさに水沢公園のリニューアル

だと。

ここに医療センターを建てるんだと、加えて150周年を迎える水沢公園のリニューアルと。

そしてそれに合わせて、その周辺です道路の整備と、やはりそういったところもちゃんとですね、面として考えてやらないとですね、ただ病院だけ建てるので、そこにやりますということじゃなくてですね、病院建てて、そこに人が集まれるような、そういう環境を作ると。

また、跡地についても、はっきり言ってあそこ結構いい場所ではあるんですよね、なので例えば、あれもやっぱり再整備してですね更地にして、例えば民間のディベロッパーさんとかがですね、入ってくれば、あそこに新しい若い世代が住むかもしれないと。

そういうような形でですね、魅力のあるまちを作っていきたいなと思っております。

この考え方のもう一つ大きな視点がですね、公共交通なんですね。

どんどんどんどんやっぱり高齢化が進んでですね、免許返納とかですね、どうしてもその交通弱者が増えていくということを考えますと、やっぱり公共交通をしっかりとしないと、とてもこの奥州市は生き残ってられないだろうということをすごく感じております。

特にこの水沢だけじゃなくても、江刺とか胆沢とかですね。

広いところを考えると、やっぱりある程度、安価で利便性が高くてですね、そういったようなシステムを組まなきゃいけないと。

ただどうしても今の、何て言いますか、公共交通の仕組みっていうのは本当に空気を運んでるっていうですね、ご指摘ありましたけどまさにその通りで、ただこれって全国的にもですね大きな今問題となっております、運転手不足とかですね、あと燃料費の高騰とかってすごく今盛んに言われてます。

なので今国が言ってるのは例えば無人運転バスとかですね、ライドシェアなんていうことも今言われてますけれども、そういう何かその共助型、助け合いの形の公共交通であったりですね、新しいテクノロジーを使った、例えばそういう自動バスの例えばでんでんむし号みたいなものをですね、水沢市内に走らせるとかですね、そういったようなものを使うことによって、車がなくても、しっかり、あそこにですね、行けるような形を組み立てたいと。だからこそ、あの場所がやはり適地なのかなということも考えておりますので、そういったような、水沢のみならず奥州市全体のですねまちづくりの観点をもって、いろんなことを考えていきたいというふうに思っております。以上でございます。

<桂田室長>

はい。

ではそれ以外の部分について私の方から、順番にですけど、4車線化の話、お気持ちはすごくよくわかります実際に整備してみて、病院建てる敷地は陸上競技場のこのブロックっていいですか、フィールドとトラックそしてあとその周りに緑地あるんですけど、ここはエリアだなというふうに思っております、出入口造るとすれば、この西側のところに面します。で陸上競技場のもう少し道路を拡幅しまして、右折レーンとかは造りたいと思いますので、少なくともここに、何かここに入る人が邪魔で渋滞するというようなことはないように避けたいと思います。

ただそうは言っても今すでにこの道路結構混んでまして、そこが抜本的にということになれば実際に新医療センターできた後の交通量調査しながらですね、必要に応じて、4車線すると全部でしょうから。

この陸上競技場の脇だけ4車線してもしょうがないので。

そういったところもちよっと含めて将来の課題なのかなというふうに思いました。

あとそれから市民の意見を聴く会のことがちょっと話題なっているので、その他でしゃべろうかと思ったんですけども、11月の8日、11日にやります。で、主には新医療センターの役割、ということを広く話してですね、それに関することであれば、広くご意見いただきたいということで設定しました。

ちょっと中部病院の先生から、この第1回目の会の内容をですね、新聞で見て、何かやっぱりなんか周産期医療の現状っていうのがやっぱ正しく伝わってないなと思ったらしくて。

秋元先生の方からちょっと申し出があつてですね、ちょっと協力するよっていうふうに言われたものですから、ちよっとその部分も扱います、10分とかそのくらいなんですけども。

なんですけど中身としては新医療センター全般についての話なので、ぜひご友人の方にも来ていただければと思いますし、あとこの間、南地区センター行ってきたんですけど、町内会長さんたちは少なくともあんまり問題は感じてないようだった、ちょっと聞いてみたんですけど、でもただ実際に住民の方でそういう方いるということであれば、もう1回その近隣の近くの会長さんと相談して、そのときは南地区センターをちゃんと会場にしてですね、やっぱその個別の説明会といいますか、そういうのも検討したいというふうに思います。

それからですね立地適正化計画の周知、公共交通も同時に検討してはどうかとかと、公園の整備、リニューアルの事業もやりますので、そういったところもしっかり検討して参りたいと思います。先ほど未来羅針盤課の方から話あった通りですね、あともう一つ、駐車場問題が大分心配されてるようです。

これ南地区センター行った時もやっぱり言われたんですけど、今でさえ有料駐車場ってすごく台数限られてて、大きいイベントあるとそこいっぱいになってしまうと。
そうすると、病院の駐車場使われちゃうと、実際病院にきた人が停めれない、なんてことだけはないようにしてくださいねっていうようなことは言われてきてました。
それ当然だと思いますんで何とか工夫はしたいと思ってます。
で、今の公園の駐車場は有料駐車場なので、単純に病院の方の駐車場無料でどうぞ誰でも入ってくださいっていうふうにすると、いろいろちょっとトラブルの元なのかなってのもあるので、そこどんな仕組みがいいのか、ちょっとそこはしっかり検討して、いずれその利用者の方が何かそれができたことによって使いにくくなったっていうことだけはないように、今よりもよかった、駐車場が増えたとし、使いやすくなった。
スペース的には、病院の建物は80床から100程度の病院であれば他所の事例見る限り、都会の方の土地代高いとこじゃない限りは、やっぱりこのくらいの規模ですやっぱり2階とか3階建てというのがやっぱり多いようなので、そこはそんなにあんまり高層階というのは今想定してないです。
それでも駐車場は十分ですね、職員の駐車場まで含めて、今の水沢病院の駐車場以上にですね、そこはしっかり確保できるようなスペースではありますので、そこは安心していただきたいと思います。
それから、今の水沢病院の跡地ですね。
跡地考えていかなきゃ駄目だねっていうのは認識してんですけど、今の時点でですねあそこ具体的にどうするっていうのは今の段階ではないです。
ただ、なくなってから、移転してから考えるじゃなくて、今から考えていかなきゃ駄目だってことだけは認識しましたのでしっかりそこは検討して参りたいと思います。
はい。
大丈夫ですかね。
以上です。

<昆野座長>

はい、ありがとうございます。
一通りご説明をいただいたところですが、何か皆さんの方で付け加えて。

はい。
金野委員お願いします。

<金野委員>

今の桂田さんの説明を伺って意見一つだけ。
進入路は、東西に作ったほうがいいと思うんです、要するに、体育館の方に近いところ一つと、それからその胆沢病院に近い方といいますかね。
そういうふうな進入路が多ければ多いほど、渋滞を緩和されるんですよ。
だからそういう工夫はちょっと考えていただきたいし、それから、テニスコート側というか、そっちから入っていく道路はどうするかとか、いろいろ多分ねこれから実際に図面に落としていくんだと思いますが、市の土地で活用できる部分があればですね、進入路はできるだけ多く作っていただきたいというふうに思います。
以上です。

<昆野座長>

はい。
ただいまご意見ということで承る形にさせていただければと思います。
その他、皆さんの方で何かございましたら。

なければ、次に進めていきたいなというふうに思います。
前は周産期医療に係る関係で、今回は医療機能の部分と病床規模、そして設置場所についてということで皆様方から意見をいただいたところです。
次回がですね、新医療センターの整備基本計画に係る関係のお話が出てくるようでしたから、そこまでに至るまでの間で、もしかしてこの辺りで新医療センターについてこういう盛り込んでいって欲しいなっていう、ご意見等がございましたら、ここはフリートークで、お受けしたいというふうに思いますので、よろしく願いたいと思います。
いかがでございますでしょうか。

<金野委員>

すいません。

何回もお話してすいません、公募の金野です。

やはり産婦人科、周産期医療をどういうふうに持っていくか、つてのは非常に大事なお話で、前回もね、意見申し上げていますし、それからあと全国的な例を見れば、山梨の方で、市が、公設民営のね、産婦人科を設置したというふうな事例もございます。

それで、今回の計画に仮に載らなくて、令和10年からの完成後、例えば第二次の計画の中に載せていくのか、同時並行で模索しながらやっていくのか、その辺の考え方をね、きちんとやっぱり改めて市長の方から表明をして欲しいんです。

議会でもいろいろ答弁をされているようなんですが、そのことについてね、きちんと市の方針としてはこうですよっていうことを示して欲しいなと、いうふうに思っています。

以上です。

<昆野座長>

はい。

それじゃ事務局の方で何かお願いします。

<桂田室長>

はい。

ありがとうございます。

せっかく意見言っていたのに、市の方でどうするつもりなのかさっぱり見えない、ということではもちろん委員の皆様、ご不満でしょうから。

ただ、やっぱり時間もかかる課題です。

これもう今すぐこうやります、っていうなかなか言えないので、ちょっとこれもその他の方で話そうかと思ったんですけども、第1回目で周産期医療のこといろいろ言われましたし、あと今日もいろんな意見いただきましたので、それに対して市として、担当者の話じゃなくて市としてどうやってるかっていうのをしっかり整理してですね、対応方針という形で、こうしますではないんですけど、こういう方向でこの精査検討、進めていきますっていうな大まかな方向性みたいなのだけでも示せるように、それを早急に、ちょっと2回いただきましたので、それは整理していきたいというふうに思ってます。

で、そこの整理した部分を、先ほどちょっと話しましたが、市民の意見を聴く会の方でもですね、少しそこをQ&Aのような形になるが、こういうことで考えてましたっていうようなことを示してですね、この委員会からもご意見いただいているんだということも紹介できればなというふうに思っていました。

はい。

以上でございます。

<昆野座長>

はい、ありがとうございます。

その他、皆さんの方で。

よろしいでしょうか。

それでは事務局の方で何かございますか。

いいですか。

終わらせて。

それではですね会議の方ですが、長時間にわたってご発言をいただいたところでございました。

これまでお伝えした内容については、いろんな今Q&Aというお話もあったようでございましたので、一旦まとめていただくということにしてもらいたいということをお願いを申し上げたいと思います。

それでは、意見交換の分については終えたいと思います。

私の任はこれで終えます。

大変ありがとうございました。

<桂田室長>

はい。

この座長議事進行ありがとうございました。

続きまして次第の4その他でございます。

事務局からのご連絡です。

次回の会議予定ですが、次回の会議については12月中を予定しております。

内容といたしましては基本構想の素案について、素案をまとめまして、その説明をした上で、その後に策定する基本計画、それを作っていきますんで、その内容についてちょっと今度はさらに踏み込んだ形で、意見交換ができればなというふうに考えております。

日程が決まりましたら文書でご案内させていただきます。

あとそれからチラシを配りましたが、市民の意見を聴く会、8日と11日ですので、傍聴の方々も含めぜひご参加いただければと思いますのでよろしくお願いします。

あとそれから、先ほどお話したですね市の対応方針、これ早めに整理してですね委員の皆さんに、メールか郵便で資料を送りたいと思いますので、届きましたらご確認をお願いしたいというふうに思います。

事務局からの連絡は以上でございます。

委員の皆様からは何かございませんでしょうか。

大丈夫でしょうか。

はい。

それではこれもちまして、第2回奥州市新医療センター検討懇話会を閉会いたします。

皆様お疲れ様でございました。